

4. ごみ減量化の取り組み

(1) 家庭系ごみの減量

ごみ減量化の最終目標に向かって約8割に抑制するとしても、実際に日常の排出ごみ量を個々に把握して削減することは困難です。即効性を求めるものではなく、日々の努力の積み重ねで毎年ごみ量を減少させて、その結果、最終目標である50%減量に到達し、それを継続していくことが大切です。前述のとおり、目標達成のためには、1日ごみ量を76.5g減量することが必要になりますが、性急に結果を求めるのは難しいと考えています。1日ごみ量の10%である1日46.9gの減量を達成すれば、全体の減量率は目標に近い47.8%となります。従って、当初の取り組みの指標として1人1日ごみ発生量を約50g減らす取り組みを求めていきます。

その対策として、

- 台所ごみの減量の推進
- 堆肥化機器への助成
- 資源ごみのリサイクル推進
- 資源ごみ集団回収の支援 などを行なっていきます。

この中でも特に、台所ごみの減量の推進に重点をおきます。

家庭系ごみの中で、最も排出量が多いのが生ごみ類であることは言うまでもありません。毎日消費する食品からでるごみは、減量もなかなか難しいものです。しかし、排出量(重さ)を軽減したり、食材を無駄にして捨てたりしないように努力する方法で取り組んでいけば減量につながります。

例えば、生ごみはしっかり水切りした後に排出するだけで重量が軽減できます。食材によって含まれている水分は異なることから、効果に差はありますが、減量につながることは間違いありません。この取り組みは比較的取り組みやすいと思います。

その他の取り組みとしては、今まで捨てていた野菜や果物の皮などを、漬物やジャムなどに加工し、捨てずに食べることで減量する方法もあります。野菜などを残さず利用するエコクッキングなどで少し手間はかかるものの、「おいしく減量」することが可能です。

試算として、その他の家庭系ごみによる減量の取り組み方策について、個別品目ごとに割り振って減量の可能性を考察してみましたが、現在の生活スタイルを考慮すると、1地方自治体での努力ではそのほとんどが実現困難な状況です。

(参照：別表4)

生ごみの減量に取り組んで、全体の減量をカバーするようにしていかないと家庭系ごみの減量は目標の達成が難しくなります。

【試算】その他の家庭系ごみによる減量の可能性について

(別表3参照)

①ペットボトル・容器包装プラスチックの場合

生ごみ類について1日減量構成比が高いペットボトル及び容器包装プラスチックは20.9gの減量目標(1日減量(平成22年度比)4.5%、全体減量率44.6%、前年度全体減量率比2.6%増)となります。空ペットボトル(350ml)1本が重さ約54gであるから、1本分減量すると約2.5日分減量したことになります。すなわち、1人当たり年間146本(365日÷2.5日)の減量が必要です。

②資源ビンの場合

資源ビンでは、2.7gの減量目標(同0.6%、同42.3%、同0.3%増)となります。これも、ペットボトル等と同じように考えると、空ジュースビン(190ml)1本が重さ約350gですから、1本分減量すると約130日分減量したことになり、年間3本の減量が必要です。

③資源紙類・古布の場合

資源紙類・古布分では、4.0gの減量目標(同0.9%、同42.5%、同0.5%増)となります。同様に空牛乳パック(1000ml)1枚が重さ約28.5gであり、1枚で約7日分の減量になることから、年間52枚の減量が必要です。

④資源容器の場合

ジュースビン、ペットボトル、アルミ缶を毎月各1本ずつ減量した場合、月に419gの減量になり、年間減量に換算すると61.3t(全体減量率43.7%、前年度全体減量率比1.7%増)になります。

以上、①から④で考察したように、現代の生活において、これらの減量目標を達成することはかなり難しいことです。しかし、いずれも再生可能な資源ごみですので、使用量は減量できなくても、分別リサイクルの徹底を図ることで排出量の減量につながっていきます。

ただし、上記【試算】についても、一つの指標として、個々の生活に即した使用の削減など減量化に取り組んでいくことも求められます。

(2) 事業系ごみの減量

事業所ごみについても、家庭系ごみと同様、減量に取り組み、無駄にごみを排出するのではなく、排出を最小限にとどめる努力をしていくことが必要です。

そのための取り組みとして

- 分別による資源ごみのリサイクル化
- 生ごみや木材等の堆肥化 が主に考えられます。

これに限らず各事業所に適した方法で取り組み、「余分にごみを排出しない」ことを意識することが、減量につながるようになります。

(3) その他

前記(1)、(2)に例示したもの以外にも、発想の転換により減量化が進むことも考えられます。

例えば、1日に発生するごみ量をただ数字で示すのではなく、ごみそのものの展示や、その量を身近にある別のもので表すなど、視覚的に理解できるような展示場所を設けることで減量を啓発する方法、といったような視点を変えた取り組みも必要です。ごみ減量化については、個々の自由な発想で取り組むことにより継続性と効果が維持されるものだと考えます。引き続き、あらゆる可能性を追求しながら、ごみ減量化に取り組んでいくことが必要です。

【試算】 種類別ごみ減量

別表4

能勢町におけるごみ排出量の実績(家庭系)

分別	(単位：t)												数値目標達成のための		1日減量 家庭系ごみ 構成比 (%)	減量目安			
	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	対H11比較 (H22-H11)	50%減量 目標ごみ量			達成までの 残減量	1人当たり 年間減量 (g)	1人当たり 1日減量 (g)
生ごみ類 (可燃)	2,568	2,471	2,468	2,318	1,982	1,733	1,713	1,628	1,437	1,432	1,519	1,451	△ 1,117	1,284	167	13,690.8	37.5	49	
粗大ごみ	186	227	91	132	257	42	50	44	46	134	101	109	△ 77	93	16	1,311.7	3.6	4.7	
不燃ごみ	106	112	101	103	138	34	48	53	55	54	73	83	△ 23	53	30	2,459.4	6.7	8.8	
資源ビン	133	129	124	119	114	97	96	96	87	86	75	79	△ 54	66	12	983.8	2.7	3.6	ジュースビン(190ml) 約350g/本、 ビールビン(大) 600g/本
資源カン	83	90	83	72	65	63	56	53	46	43	39	37	△ 46	41	△ 5				アルミ缶(350ml) 約15g/本、 スチール缶(350ml) 約28g/本
資源紙類・古布	385	379	368	327	314	326	324	304	303	250	224	211	△ 174	192	18	1,475.7	4.0	5.2	朝刊用新聞 250g/1日分、A4用紙 4g/枚 牛乳パック(1000ml) 28.5g/枚 段ボール箱(みかん箱) 1kg/箱 大人用トレーナー 500g/枚
その他プラスチック	99	48	43	43	46	37	37	38	39	32	0	0	△ 99	49	△ 50				
ペットボトル及び 容器包装プラスチッ	35	167	166	175	195	202	200	187	156	135	120	111	76	17	93	7,624.2	20.9	27.3	空ペットボトル(350ml) 約54g/本
蛍光灯	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	2	2	0	2	164.0	0.4	0.5	
乾電池	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2	3	3	3	0	3	245.9	0.7	0.9	
合計	3,595	3,623	3,444	3,289	3,111	2,535	2,527	2,406	2,172	2,169	2,155	2,086	△ 1,509	1,795	286	27,955.5	76.5	100.0	

1人1日当たりの排出量

	(単位：g)											
	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
人口 (外国人含む)	14,861	14,671	14,505	14,285	13,932	13,711	13,437	13,177	12,953	12,661	12,468	12,198
排出量	663	677	651	631	612	507	515	500	459	469	474	469

これだけ減量すれば家庭系ごみは50%減量達成。
H22の1日1人当たり排出量の16.3%に相当。

→ 10%削減 46.9g 生ごみ類と資源ビンの1日減量合計に相当

※年間減量は平成22年度末人口を基に算出

(年間ごみ量)	2,086t	－	208.8t	=	1,877.2t	対H11比減量率
(対H11比ごみ量)	1,877.2t	÷	3,595t	=	52.2%	47.8%

(H11ごみ排出量)

PET・容器部分を減量した場合 1人当たり1日減量 20.9g → 4.5% 対H22(1人当たり1日排出量)減量率

(年間ごみ量)	2,086t	－	93.1t	=	1,992.9t	対H11比減量率
(対H11比ごみ量)	1,992.9t	÷	3,595t	=	55.4%	44.6%

資源ビン分を減量した場合 1人当たり1日減量 2.7g → 0.6% 対H22(1人当たり1日排出量)減量率

(年間ごみ量)	2,086t	－	12.0t	=	2,074.0t	対H11比減量率
(対H11比ごみ量)	2,074.0t	÷	3,595t	=	57.7%	42.3%

資源紙類・古布分を減量した場合 1人当たり1日減量 4.0g → 0.9% 対H22(1人当たり1日排出量)減量率

(年間ごみ量)	2,086t	－	17.8t	=	2,068.2t	対H11比減量率
(対H11比ごみ量)	2,068.2t	÷	3,595t	=	57.5%	42.5%

ジュースビン、PET、アルミ缶を1本/月減量した場合 419.0g

(年間ごみ量)	2,086t	－	61.3t	=	2,024.7t	対H11比減量率
(対H11比ごみ量)	2,024.7t	÷	3,595t	=	56.3%	43.7%